

## これからの課題（案）

2020年1月から日本国内で感染拡大が広がり始めた新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活が一変してから1年が経過した。その中で男女平等参画社会に程遠い社会の現状が明らかになった。テレワークや休業などで夫が家にいる時間が増えた結果、ストレスなどもありDVや児童虐待が増えたと言われている。また、学校や保育園などが休校・休園した時期は親が仕事を休んで子どもを見るケースがあったが、休むのは女性が多く、根強い固定的性別役割分担意識や、仕事における男女の格差が浮き彫りになった。女性が7割を占めると言われる非正規雇用者の解雇が増え、また女性や子供の自殺率が急増するなど、特に女性が大きな影響を受けていることが伺える。一方で家族全員が家にいる時間が増えたことで家族間のコミュニケーションが増えたという声もあり、また働き方が見直されることで、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた動きが加速される可能性があるなど、プラスに捉えられる面も認められる。今後は社会のあり方が変わり、これまでの生活が見直される中で、男女平等参画社会の実現に近づけるよう、様々な機会を捉え、働きかけていく必要がある。

2019年12月に公表された世界経済フォーラムによる最新のジェンダー・ギャップ指数（GGI）によれば、日本は153か国中121位と、これまでで最も低い順位となっている。今回も政治分野が144位、経済分野が115位と、順位を下げる要因となっており、これらの分野での女性の活躍が大きな課題となっている。

平成30年5月に「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が成立・施行されたが、まだ目に見えて女性の議員や首長が増えたなどの成果は現れてはいない。今後の経過を見守る必要があるが、今回のコロナ禍で生活者としての女性の視点が様々な方針を決める際に必要であることが明らかになったと思う。男女それぞれの意見が反映されてこそ、より生活しやすい社会が実現されるので、市としても様々な意思決定の場に男女双方の意見が取り入れられるような取り組みを進めていただきたい。

さて、今回から新たに第4次計画の評価が始まり、委員会においては新たな評価方法による初めての評価を行った。評価方法も変わり、また各課事業別評価から課別・施策別評価へと変わったため、第3次計画評価との単純な比較はできないが、今回は施策評価・各課評価ともB評価の数がA評価を上回った。C評価は少なかったが、その分課題が浮き彫りになった。第3次計画から引き継がれた課題については、残念ながら今回も進捗が認められなかった。新たな委員からの意見も踏まえて、少しずつでも改善を図っていくことが重要と考える。

また、これも第3次計画評価で指摘していたことであるが、各課の評価についても、委員会の前年度評価を踏まえた目標設定や執行となっているのか、判別できないものが見受けられる。事務局は委員会の声を各課に届ける橋渡しの役割をしっかりと果たしていただきたい。

各種啓発事業に関しては、当面様々な制約を受け、実施が難しい面もあると思われるが、SNSを使つての情報発信やオンライン講座の開催など、新たな取り組みを模索しながら対応をしていただきたい。

令和3年1月 日

西東京市男女平等参画推進委員会